

2023年春季展覧会

# 森野旧薬園と 牧野富太郎

～森野家との交流～

会期：2023年 3月21日(火・祝)  
～6月 4日(日)

会場：森野旧薬園 資料室

開館時間：9:30～16:30

期間中無休(但し旧薬園入園料 300円)

主催：森野旧薬園 共催：大阪大学総合学術博物館

協力：一般社団法人日本東洋医学会・日本漢方生薬ソムリエ協会・

つくば牡丹園・近畿大学薬学部薬用資源学研究室・

(株)栃本天海堂・(株)前忠



大阪大学総合学術博物館第7回特別展より



# 森野旧薬園と牧野富太郎

## ～森野家との交流～

森野旧薬園(奈良県宇陀市:旧薬園)は、現存する日本最古の私設薬草園です。1729年に森野初代藤助通貞(号:賽郭、1690～1767年)により創始され、八代将軍徳川吉宗が推進した薬種国産化政策の一端を担いました。賽郭以降、子孫代々藤助を名乗り、初代の志を継いで家業の葛粉製造と薬園の維持・拡充に努力してきました。明治以降の近代化によって伝統的な和漢薬が衰退し、薬園が途絶する流れに抗し、旧薬園は森野家の努力により維持された稀有な存在であり、1926年(大正15)に国の史跡指定を受けています。今回、日本の植物分類学の父として知られる牧野富太郎(：牧野博士、1862-1957年)と森野家との交流について、自筆墨跡や遺された森野家芳名録・採集行動録から、その足跡を紹介致します。また、旧薬園保存に尽力した地元出身の薬業創始者・津村重舎〔現:(株)ツムラ〕は、牧野が1916年に自費刊行した『植物研究雑誌』の財政支援や学問興隆を協働し、今に至ります。春の園内は13000株以上のカタクリが咲き乱れる美しい季節を迎え、まさに賽郭が描いた松山本草の世界です。この機会にご賞翫ください。

### 1. 出品内容

牧野富太郎 墨跡「草を褥に」、牧野式植物図、和漢薬標本〔(株)ツムラ提供〕、牧野富太郎植物採集行動録、植物研究雑誌、森野家芳名録、森野家則他、伝池大雅筆神農ノ書、松山本草レプリカ、旧薬園保存会寄付一覽扁額レプリカ

### 2. 展示構成

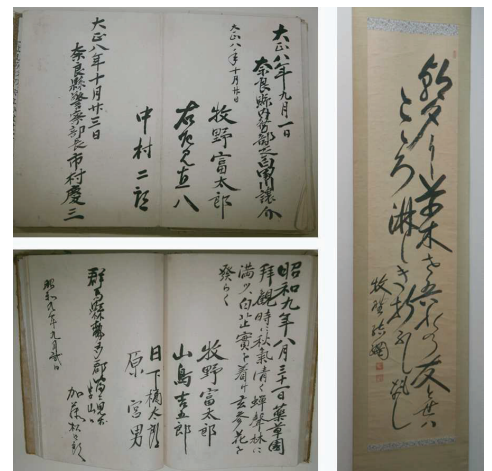
第1章(資料室1F) 森野旧薬園と牧野博士の交流  
第2章(資料室2F) 日本植物分類学の父:牧野博士が描く植物画  
第3章(旧葛工房) 旧葛工房にみる製造技術:水飛法と寒晒し

### 3. 会場 国史跡 森野旧薬園 資料室他

(但し森野旧薬園入園料として300円必要)  
〒633-2161 奈良県宇陀市大宇陀上新1880

### 4. 会期 2023年3月21日(火・祝)～6月4日(日) 期間中無休

開館時間 9時30分～16時30分



森野家芳名録に遺る牧野富太郎の署名と墨跡「草を褥に」

主催:森野旧薬園 共催:大阪大学総合学術博物館

協力:一般社団法人日本東洋医学会・日本漢方生薬ソムリエ協会・つくば牡丹園・  
近畿大学薬学部薬用資源学研究室・(株)栃本天海堂・(株)前忠

展示解説(要予約) 連絡先 森野旧薬園 Tel: 0745-83-0002

(大阪大学総合学術博物館招聘教授/旧薬園顧問相談役 高橋京子)

宇陀松山地区の観光ガイドをご希望の場合は、2週間前までに観光ボランティアガイドの会  
(宇陀市観光課内 Tel 0745-82-2457)へお問い合わせください。

本研究の一部は独立行政法人日本学術振興会2017-21年科学研究補助金基盤研究(B)特設分野研究(課題番号17KT0079)、大阪大学総合学術博物館第7回特別展(2014年)、同博物館叢書11『漢方今昔物語』高橋京子・小山鐵夫著)の成果が含まれる。〔展示協力:アカデミックシアタープロジェクト「生薬の図書館プロジェクト」〕